

留学報告書 ～オレゴンでの1 Semester～

パシフィック大学
外国語学部生（中期）

私は、アメリカのオレゴン州にある、パシフィック大学オレゴン校に8月の下旬から12月半ばまでの約4か月間留学しました。私にとって、海外に行く機会は、今回の留学が初めてでした。そのため、出発前は、慣れない言語、環境の元で、一人で生活することに不安を抱いていました。とはいえ、見たことのない景色が見られたり、そこでしかできない貴重な体験ができたと思うのと、楽しみで仕方ありませんでした。

入国初日は、私の予想以上に大変な一日となりました。長時間のフライトの末、サンフランシスコに着いたものの、予想外のトラブルが発生しました。入国審査が非常に混んでおり、その後に乗る予定だったポートランド行きの飛行機に乗ることができないという事態に陥りました。スタッフの方から、今日のポートランド行きの便はもうないということを知ったときは、とても焦り、不安でたまりませんでした。しかし、幸いなことに、日本人のスタッフの方がいらっしゃって、ホテルと翌日の飛行機の予約を取ってくださいました。おかげで、翌日無事ポートランドに到着することができました。キャンパス内の寮に入った時は、まだ新学期が始まる約1週間前だったため、ルームメイトはまだ到着していませんでした。寮に入ってから2日後、ルームメイトが到着しました。人見知りでも口下手なこともあり、最初は彼女と友達になれるか心配でしたが、彼女は初対面の私にも優しく接してくれ、すぐに仲良くなることができました。

キャンパスに着いた次の日からは、数日間に渡ってオリエンテーションが行われました。在学生の方々と一緒にショッピングセンターへ買い物に行ったり、キャンパス内のスタジアムに、アメリカンフットボールの試合を見に行ったりしました。



キャンパス内を歩いていると、腕や脚にタトゥーを入れている人が多く見られました。日本では、タトゥーに対し、ヤクザや罪人のシンボルなどの良くないイメージが根付いており、私も正直、そのようなイメージにとらわれていたため、これだけ多くの人がタトゥーを入れているのかと驚いていました。ところが、仲良くなった現地の在学生在が、アメリカではタトゥーはよく見られるもので、ファッションの一環として楽しむためや、自分らしさを表現するために入れている人が多いと教えてくれました。その学生も、腕にいくつかタトゥーを入れており、それらは自分と家族とのつながり、自分の好きなものを表現するためのものでした。この話を聞いて、自分はまだ自国の常識にとらわれすぎているのだと実感しました。また、偏見にとらわれて人や物事のよし悪しを判断してはいけない、視野を広げ、多様性を受け入れることは大切だと改めて思いました。

入国から4日後、ついに授業が始まり、私はESLの授業を取りました。授業やその課題は、教科書を読んで問題に答えたり、英作文を書いたりなど、日本の大学の授業でやっているようなものもありました。しかし、全体的に見て、自分の意見を言う機会が多く感じました。実際に、授業内で先生に当てられない日はほとんどなく、ほぼ毎回の授業にペアワークやグループワークが取り入れられていました。自分の考えを声に出して伝えることに苦手意識を持っていましたが、自分でも驚くほどに、授業が進むにつれてそれを苦に思わなくなっていきました。

放課後、時間のある時は、大学の近くにあるドライブスルー形式のコーヒーショップにコーヒーを買いに行ったり、大学から歩いて15分くらいのところにあるスーパーや100円ショップに買い物に行ったりしました。10月初旬には、他大学の日本人留学生の子と、ファーマーズマーケットに行きました。そのファーマーズマーケットは大学の前に位置する通りで開かれ、きれいな花やお土産、新鮮な野菜がたくさん並んでいました。

先生方はとても気さくで、どのような質問にもいつも丁寧に答えてくれました。加えて、机に向かって勉強するだけでなく、ここでしかできないことをたくさんやってほしいと、大学やその近くで行われるイベントやボランティアの情報をいつも提供してくれました。私は、気になったイベントやボランティアには、積極的に参加するようになりました。

クラブフェアも開催され、日本にちなんだイベントの企画・開催等をするJapan Clubというクラブと、Outdoor Pursuitというアウトドアのクラブに入りました。これらは、留学の身であるからこそできる特別な経験になっただけでなく、現地の友達をたくさん作る非常に良い機会となりました。

Language Partnerというボランティアでは、パートナーとなった現地の在在学生の子達に日本語を教えました。それに並行し、その子達から英語を教わりました。発音や説明が難しく、自分の言いたいことが相手に上手く伝わらずに苦戦したこともありましたが、とても有意義な時間を過ごしました。また、その子達と話すことで、自分の知らなかったアメリカの政治や歴史、文化を学ぶこともでき、それらについてより興味を持つようになりました。

週末には時々、Japanese International Baptist Churchという日本人の方が牧師さんを務める教会に行き、礼拝に参加しました。教会に携わっている皆さんは、私たち留学生のために、バーベキュー、秋祭りのボランティア、バスケットボールの試合観戦、クリスマスパーティーを兼ねた送別会など、様々なことを計画してくださいました。その中に、パシフィック大学の先輩やOGさんもいらっしやり、私は、10月下旬に、大学のOGと一緒にポートランド美術館 (Portland Art Museum) に行きました。展示されている多くの絵画や彫刻、工芸品はどれも魅力的で、目を奪われるものばかりでした。さらに、それらはアメリカのものから日本を含むアジア、西洋のものまで多岐に渡っており、見て回っていると、世界一周旅行をしているかのように面白かったです。

ハロウィン前日には、大学の近くにお住まいのおばあさんとその旦那さんのお宅にお邪魔し、美味しいディナーをご馳走になりました。食後には談話やゲームをし、楽しいひと時を過ごしました。お二人は、私に本当の家族のように接してくれ、私にとっては、もう一人のおじいちゃん、おばあちゃんができるようでした。



帰国日が迫る中、11月のサンクスギビング休暇には、教会でお世話になった大学のOGさんのお家でパーティーがありました。サンクスギビング休暇は、基本家族で過ごすものだと思っていたので、OGの方が誘ってくださった時は、とても嬉しかったです。パーティーはとても賑やかで、食べたことのない料理がたくさん出てきました。

また、帰国3日前には、同じく教会でお世話になったご家族の方々と、日帰りシアトルに行きました。大きなビルが立ち並ぶその街並みは、とても迫力がありました。スターバックスの1号店やGum Wallなど、シアトルならではの観光地、クラムチャウダーなどの美味しい食べ物を満喫することができました。そして、帰国の前日と帰国日、お世話になった方々や現地の友達との別れはとても悲しかったです。



経験したことのない困難に直面し、大変だったこともたくさんありましたが、この中期留学は、とても充実したものになりました。また、様々な新しい発見や経験を通し、新しい価値観や考え方を学んだことで、自分の価値観や考え方も大きく変わり、自分に自信が持てるようになりました。パシフィック大学、オレゴンでの生活は、私を想像以上に成長させてくれました。この留学生活で得たものを今後に活かし、自分の強みにして、さらに伸ばしていきたいと思います。

